（様式１）

資料３

バリアフリーの街づくり取組み推進状況モニタリング現地確認結果報告書

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 対象事例名 | | Music of Mind |
| 対象団体名 | | 特定非営利法人　Music of Mind |
| 現地確認日時 | | 2018年2月23日（金）12：30　～　14：30 |
| モニタリング  グループ | | 〔リーダー名〕斉藤委員 |
| 〔メンバー名〕桑波田委員 |
| 検　　証　　項　　目 | | |
| 先進性 | （総括）「Music　of　Mind」では、従来の「就労継続支援B型事業所」の事業活動の枠にとらわれず、音楽活動を中心に、まず利用者自身が楽しみ、利用者一人ひとりの能力を見つけだすことに重点をおいた事業活動を行っている。具体的には、活動拠点である「Live Cafe」において利用者によるライブ演奏（サロンコンサート）を行い、同時にそこでは利用者の作る料理が提供される。（利用者によるカフェの営業と調理の実施）  こうしたカフェの運営を通し、誰もが同じ気持ちで、心に隔たりを持つことなく、一緒になって楽しく過ごす場（音楽演奏とおいしい食事）を提供している。  こうした取り組みは、当初、前例がないため行政の理解が得られにくかったそうだが、その後の活動の積み重ねで認知度が進んだとのことである。  こうした新たな挑戦は、まさに先進的な事業活動として高く評価される。  「委員コメント」：サークル活動でもボランティア活動でもなく、音楽を仕事とする自立支援（プロの音楽家を育成する）活動と、その活動を支えるためのカフェ運営やグッズ製作販売という事業形態を、就労支援事業の形態で実現しようとしている点は、とても独自で先進的な活動です。しかし先進的な活動であることで、既存の事業体からは受け入れられず、情報交換さえままならいとのことです。孤立してしまわないように、地域や行政によるサポートが求められていると感じました。 | |
| 共感性 | （総括）この事業所の活動目標は、「ここは知的障がい者の、音楽、おいしい料理、ファンシー雑貨があふれるコミュニティサロンです。毎日楽しく歌ったり、皆さんに愛される雑貨を作ったりして過しています。」とされている。  この目標には、障がいの有無に拘らず、また障がいがあってもその人一人ひとりの個性（人権）を尊重し、日々の生活を充実したいといった運営者の意志が強く伝わってくる。  こうした取り組みは6年目を迎え、その活動を通して地元の住民や福祉施設などとの交流が進み、地域社会からの支援や共感の輪が広がっている。  「委員コメント」：明るいカフェ店内で、利用者が料理するガレット、パスタ、リゾットといったカフェメニューはグレード感もボリューム感もあり、とても美味しかったです。料理を楽しみながらの利用者と運営者によるライブ鑑賞は、非日常的な時間を楽しむことができ、また来たい、また見たいという気持ちになりました。  東日本大震災をきっかけに音楽による自立支援活動に至った、設立者の熱い思いとその努力を目の当たりにすると、共感の気持ちが自然に湧き、彼らの活動を応援したいという気持ちになりました。 | |
| 利用者の視点と県民ニーズの反映度 | （総括）利用者を主体に、利用者自身が楽しく過せる場とは何かを考え、そのため音楽を通して誰もが一緒になって過ごせる場を提供する。  そこでは利用者一人ひとりの適正を考えながら、多くの人とのつながりが可能となるような事業活動が展開されている。  　利用者の視点を基本に置いたこれらの事業は、共に生きる社会づくりが問われる今、示唆に富む活動といえよう。  「委員コメント」：プライドを持って全力で演奏やカフェの仕事に取り組む姿を見ると、運営者が利用者本位に事業に取り組んでいることが十分に伝わります。  運営者の温かい人柄、一人一人の個性を尊重する姿勢、地域社会との連携の模索、偏見や差別を乗り越えようと努力していることなど、ともに生きる社会を実現したいという県民ニーズを強く反映した活動が行なわれていると感じました。 | |
| 波及効果 | （総括）「100人の利用者がいれば100通りの支援を考えたい」、「先入観を持たずに柔軟に対応することが大切」、「一人ひとりの可能性を信じること」、といった運営者の言葉は、こうした事業所のあるべき姿として高く評価したい。  　更に誰もが楽しむことのできる音楽を軸に、その人にあった仕事を探し、日々楽しく過せる場を提供するといった考えに多くの県民は共感を持つであろう。  　こうした活動の取り組み（利用者主体、地域とのつながりと人とのふれあい）を広く県下に知らせることこそが大切と考える。  「委員コメント」：利用者の生き生きとした表情を見て、また運営者の情熱あふれるこれまでの活動の話を聞いて、事業としての就労・自立支援に新たな風が吹いていると感じました。  現在は地域のイベントに呼ばれるようになり、認知度も高まりつつあります。利用者の才能を引き出しながら、運営者と利用者とが協力しあって事業を進めている姿に、地域の共感が得られつつあるようです。さらに共感の波が広がり、多様な人たちを認め合う優しさに満ちた地域社会の到来を予感します。 | |
| その他 | （委員コメント）現在の事業を安定軌道に乗せ、更に事業活動を活発化させるために、楽曲の充実や著作権ビジネスへの展開、ライブ活動の拡大、カフェメニューやグッズ類の充実など、前向きな事業構想を持たれていて、今後の展開がとても楽しみです。運営者の大きな夢が、事業活動の強い推進力になっていることを感じました。 | |
| 所見 | 「委員コメント」：「Music　of　Mind」は音楽活動を中心に、利用者一人ひとりに合った仕事を探し、楽しみながら過せる職場づくりを目指しており、カフェ訪問当日も利用者の皆さんの生き生きとした姿が印象に強く残っています。  　カフェでは、ランチメニューが3通り用意されており、接客はもとよりランチの調理を利用者が中心となって行うなど、利用者一人ひとりの可能性を信じ、その能力を引き出そうとしていることがわかります。  　食事の準備が終わると今後は演奏に入ります。歌い、リズムを刻み、体で調子をとるなど、それぞれができることを楽しく演じていました。  そうした利用者の気持ちがとても良く伝わってきます。  　県下では、こうした事業所の取り組みはまだ少ないと思われますが、音楽活動を軸に、利用者一人ひとりが持つ可能性を真剣に考え、加えて地域社会とのつながりを築くなど、そこでは、今問われている共に生きる社会づくりに向けた先進事業が既に行われているといった印象を強く持ちました。  「委員コメント」：今回のモニタリングで、活動拠点のカフェを訪れ、ランチを楽しみながらライブを鑑賞し、非日常的な充実した時間を過ごしました。また、運営者へのヒアリングから、様々な困難の乗り越えによって、この充実したひとときがあることを知り、運営者の熱意に熱くなるものがありました。事業の成功を心から願っています。  世の中にはたくさんのライブカフェがありますが、その多くは事業を継続することが難しい状況だと聞きます。事業者からも採算性に大きな課題があることを伺いました。ぜひ地域連携の強化や県民ニーズの反映が強みとなるような、独自な事業展開を模索し続けていただきたいと思います。本事業の認知度が高まり、ファンや応援者の獲得へと繋がって、息の長い事業活動となるように期待しています。  また、ライブハウスや音楽フェスティバルによく出向く一音楽ファンとしては、非日常的なライブ感覚を楽しみに出向くので、是非プロデューサーとして、今後もオンリーワンの世界観や存在感を追求し続けて欲しいと思います。健闘をお祈りしています。  最後に、一県民として、「ともに生きる社会かながわ憲章」を実現するには、このような活動が継続され、県民に波及し、次々と新たに熱意を持った活動が生まれてくる正のスパイラルを生み出すための取り組みが、地域社会や行政に求められていると感じます。そのためにも、このような事業が孤立しないように見守り、積極的に支援していくことが重要だと考えます。 | |